

市民フォト

ふくしま 夢つうしん

Fukushima yume-tsushin

福島市

No.23

2015年7月号





「いい電の魅力を私たちが紹介します!!」

レトロなローカル線を愉しむ

GOOD TRAIN **いい電**
いい電で、ちょっといい旅しませんか



美術館図書館前駅～岩代清水駅 撮影/市民カメラマン 渡部司さん

福島市民に親しまれて91年

福島交通飯坂線は、JR福島駅から終点の飯坂温泉駅までの9.2kmの道のりを走る短い鉄道です。市民の通勤・通学や、飯坂温泉を訪れる観光客の足として欠かすことのできない役割を果たしています。沿線には小さな「マイ踏切」もあるローカルな飯坂線の魅力を、今年の春から飯坂線で働き始めた2人の女性車掌さんが紹介します。



福島駅から23分のちょっといい旅しませんか?

レトロな駅舎

昭和17年開業の赤い屋根が印象的なレトロな駅舎。入口に花屋さんが併設され、中には天井の高い待合室がある。



曾根田駅



福島県立美術館

春の松川は川沿いに桜並木が続き、西側には吾妻山の残雪を望むことができる。まさに絶景!

オールステンレスカー7000系電車

切符を拝見します!



出発進行!



医王寺前駅～花水坂駅 桃畑

フルーツライン

初夏から晩秋まで、果物狩りが楽しめます。甘くておいしい飯坂のフルーツを召し上がれ!

飯坂温泉

さばこゆ 鱒湖湯を始め9つの共同浴場がある飯坂温泉。松尾芭蕉や正岡子規、与謝野晶子といった文人も訪れたと言われていいます。



鱒湖湯 ※飯坂温泉発祥の地と言われています



飯坂温泉駅

初夏から夏にかけて眼下にはサクランボや桃などの花が咲き誇ります。

福島県立美術館

絵画、版画、彫刻、工芸など3,000点以上の美術品を収蔵しています。フランス印象派の絵画や20世紀アメリカの絵画が大きな特色です。また、2016年4月6日～5月8日、フェルメールとレンブラント名画展を開催予定。
※現在改修工事に伴い休館中です【2015年4月6日～2016年3月(予定)】。
開館時間/午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日/月曜(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日曜日にあたる場合を除く)、年末年始
問/福島県立美術館 ☎024-531-5511

貸切列車 いい電の列車と車庫(桜水駅)をお貸しします!

車庫でおいしいワインを飲みながら、皆さんと交流するワイントレイン。2両編成、座席定員88席の列車を貸し切って「車両基地見学ツアー」や「結婚式」が開催されたこともあります。飯坂電車を丸ごと楽しんでみてはいかがでしょうか?

問/福島交通鉄道部 ☎024-558-4611

Bonmarche 駅カフェ

曾根田駅ホーム横のレール上で飯坂電車を見ながらお茶を飲んだり、駅構内でコンサートやカフェを楽しめます。

とき/月1回開催 (詳しくはお問い合わせください)
問/一般社団法人手づくりマルシェ ☎024-563-3680



▲駅構内でのコンサート



▲オープンカフェ



▲運転体験



▲車庫探検

福島交通飯坂線車掌 波里 歩美さん
福島市の皆さんの足である飯坂電車で、地域のために働きたいと思い、車掌になりました。覚えることがたくさんあって大変ですが、お客さんたちと仲良くできる車掌になりたいです。

ふくしまの魅力人

みりょくびと

Interview

祖父が確立した作風「空間有美」を受け継ぐ若き盆栽作家

吾妻山の麓に80年以上続く盆栽園の三代目、阿部大樹さん。時々、山に分け入っては老木、古木の枝や幹、根を観察しながら仕事のヒントにするという阿部さんに、「空間有美」を本質とする盆栽の魅力とこれからのについて伺いました。



ぼんさいや「あべ」三代目 阿部大樹さん

Daiki Abe PROFILE

祖父・故・倉吉氏は、皇居の盆栽も手掛けた業界の第一人者。父・健一氏と共に祖父が確立した作風「空間有美」を追求。盆栽の素材となる苗の販売と盆栽の手入れを生業にしながら国内外での講演や盆栽展、苔玉づくり体験などを通して盆栽の魅力を伝える活動にも取り組んでいる。今秋は、スイスやフランスを巡りその魅力を伝える。
Facebook ● ぼんさいや「あべ」 <https://www.facebook.com/kukanyubi>

■ 吾妻山をモデルに 海外にも盆栽の魅力を発信

祖父・倉吉さんが確立した盆栽の作風「空間有美」を本質とする阿部家の盆栽の魅力は、祖父の著書が数カ国語に翻訳されていることもあり海外にも伝わっています。ご両親がベルギーで行っている実演は、今年で10年目になるそうです。「盆栽作りの原動力は感動です。自然の造形美に感動したら誰かに伝えたいかならその方法として盆栽があるんだと思います。これからは吾妻山をモデルに、見ていると胸がスツとするような良い作品を作り続けていきたい」

「いと話す大樹さん。盆栽展示会や気軽に参加できる苔玉づくり体験などで、ぜひその魅力に触れてみてください。」



▶阿部さんのお宅には、直接指導を受けたという外国からやってくる方も



三代目 阿部大樹さん
これからの空間有美を追求し続けます

二代目 父・健一さん
盆栽は生命の芸術。盆栽に国境なし

■ 感動を与え続ける盆栽

三代目として盆栽業を継ぐことに迷いはなかったという大樹さん。五年間の修業から戻り、最初に手掛けたのが盆栽の認知度を上げることでした。「苗づくりや盆栽の手入れをしながら、若い人たちの手仕事市やフリーマーケットなどに顔を出すことから始めました」。すると少しずつ講演や苔玉づくり体験などの講師依頼が舞い込むようになりました。順調に盆栽業が軌道に乗り始めたころ起きた東日本大震災。「続けるべきか悩みました。そんな時に福島市内に避難された方が盆栽を見て、『心が安らぎました』と言い、帰られました。この言葉で続けることを決心しました」。2011年夏、震災後初めて行った盆栽展には多くの人が訪れてくれました。



▲「五葉松盆栽の作り方」(阿部倉吉著 山海堂刊) イタリア語、フランス語、スペイン語、英語に翻訳され盆栽の魅力を海外に発信。近日ドイツ語版が出版予定

■平成27年度 盆久楽展 無料
大樹さんが今も手入れを続ける祖父の倉吉さんの作品を見ることが出来る貴重な展示会です。
とき/10月10日(土)、11日(日)、12日(祝)
ところ/吾妻学習センター分館
☎/盆久楽会 会長 阿部健一
☎024-591-11638

■苔玉づくり体験
大樹さんが、美しい苔玉の作り方を一から丁寧に教えてくださいます。ぜひご家族で参加してみてください。
と き/7月20日(祝)、8月23日(日)
と ころ/アオウゼ
参加費/三千元
申し込み/開催日の7日前までに電話で
※申し込みから未済の場合は開催できません。ご了承ください。
☎/福島市観光コンベンション協会
☎024-531-16432



手仕事の国、ふくしまの歴史と未来を紡ぐ

福島市民家園を拠点に、高度な技術で日本の近代化を牽引した福島の養蚕と織物文化の伝承活動が続ける「福島市民家園手織りの会」の皆さんにその魅力を伺いました。



福島市民家園手織りの会 会長
鈴木 美佐子さん



歴史に裏付けられた高い技術

「民家園で織り機を動かすと、お年を召した方などは、風景とあいまって『お母さんがやっていた』など、幼い頃の記憶がよみがえるようです」と話すのは、福島市民家園手織りの会（以下、手織りの会）会長の鈴木美佐子さん。「活動をしていると、福島の高い織物の技術や歴史を知り、いつも驚きと発見の連続です」

銀行の出張所が福島に開設されたのは、福島が当時の日本の重要輸出品だった生糸の集散地であったことと東北の金融の中心だったからです。そのため、盛んに行われていた養蚕業の発展とともに、手織りの技術も発展を遂げてきました。

伝統の手織り復活

民家園に保存・展示されている機の一つ弓棚機。一度は忘れられたその技術を復活させるため、まずは織りに関わる道具の一つ、カケ糸（糸綜統）を復活させることから始めました。



裂き織り

古い布を裂いて糸にして織る手法。大切な布を最後まで使い尽くそうという知恵から生まれた織物です。手織りの会では、古布を横糸に昔の織機で織っています。



茂庭のしなだ織り

日本三大自然布の一つ「シナ布」。シナの木（科木）の樹皮「科皮」を細く裂いて織ります。福島では「しなだ織り」と言われています。丈夫で特に水に強いことから、ぬれたままの桑の葉を入れる袋（ゆたん）に使われていました。蒸し器の敷布（地方名：アゲノ）にも使われました。



八つ橋織り

八つ橋織りは、表織子と裏織子の組織を格子状に配した絹織物のこと。大小の正方形や長方形を組み合わせた市松風の四角が丸く見えたりするなど、福島では高度な技術による織物が生産されていました。



※カケ糸（糸綜統）
横糸を通すために、縦糸を上下に分ける道具

情報を集めていると「母親が弓棚機で織っていた」という、方々がみつかり、その協力を得て当時の作り方でカケ糸を復元することができました。「福島で受け継がれてきた作り方は、目からウロコ、当時の技術の高さを感じました」

弓棚機で織る「八つ橋織り」は糸綜統を8枚使って複雑な模様を作ることが出来ます。矢葺家に四代にわたって受け継がれてきた秘伝書を、手織りの会顧問の佐藤さんが解説して、ついに「八つ橋織り」を復活させることができました。

福島には織物がある

どんどん機械化される社会の中で、なぜ手織りにこだわるのか。そ



研鑽に励む手織りの会の皆さん



矢葺家に代々伝わる秘伝書

これは福島の先人が残した素晴らしい技術と本物の織物を次の世代に伝えて、福島の子どもたちに、自信を持って『福島には織物がある』と言ってもらいたいからです。皆さんも福島市民家園で福島を発展させてきた手織りに触れてみてはいかがでしょうか。

蚕を育て、繭から糸をとり、布を織る。

蚕繭、生糸・真綿、織物と福島には、織物の全ての行程が残っています。養蚕農家だった旧小野家では、古い道具を使って毎年7月から蚕を飼います。8月1日(土)2日(日)に開催される「糸とり・機織り」では、繭を煮て糸を引き出し（座繰り）糸をとり、絹機を使って機を織る一連の作業を再現します。（一部体験可）
問/文化課 024-525-3785

福島市民家園 旧小野家での取り組み



ふくしまスイーツコンテスト 2015

今年のテーマは
モモ!



コンテスト参加者募集!

「くだもの宝石箱ふくしま市」を代表するくだもの「モモ」を使用した「スイーツコンテスト」を開催します。コンテストの開催を通して「くだもの宝石箱ふくしま市」の魅力を全国に発信するとともに、優秀な成績を収めたスイーツを、福島市内を中心とする菓子店・レストラン・ホテル・旅館などで商品化し、福島市の新たな魅力の創出を目指します。

募集期間

平成27年 **7月31日(金)** (必着)

応募資格

プロ部門

福島市を愛する、調理師・パティシエなど料理や菓子づくりを仕事とする方を対象とした部門。

一般・学生部門

福島市を愛する一般の方・学生を対象とした部門。

※いずれの部門も応募者の居住地は問いません。

募集内容

福島産「モモ」をメインで使用したスイーツ

審査方法

第一次審査(書類審査): 8月6日(木)

第二次審査(実技・試食審査): 8月22日(土)

賞および表彰 各賞(市民賞を除く)受賞者は審査員により選定。

1 グランプリ
(各部門1人計2人)

賞金 **10万円**

副賞 東京有名ホテル
1泊2食ペアご招待

(一般社団法人 料理ボランティアの会協賛)

2 準グランプリ 賞金 **5万円**
(各部門1人計2人)

4 アイデア賞 賞金 **2万円**
(両部門で1人計1人)

3 金賞 賞金 **3万円**
(各部門1人計2人)

5 市民賞 賞金 **1万円**
(両部門で1人計1人)

※一般審査員により選定。※他賞と重複可。

応募方法

所定の応募用紙に必要事項を明記の上、作品の写真2枚(全体・断面各1枚)を添付し、農業振興課まで持参または郵送でご応募ください。

応募用紙の配布場所

福島市ホームページに掲載、または農業振興課、各支所・出張所・学習センター、市内の大学・短大・スーパーマーケットなど ※希望者には郵送いたします。

URL <http://www.city.fukushima.fukushima.jp/>



審査員

一般社団法人 料理ボランティアの会(7名)



中村 勝宏 さん
日本ホテル(株)
統括名誉総料理長



田中 健一郎 さん
帝国ホテル
専務執行役員
総料理長



石田 日出男 さん
ホテルトリタエドモト
調理部長
総料理長



望月 完次郎 さん
帝国ホテル
調理部次長
兼ベストリー課長



内藤 武志 さん
ザ・プリンス・パークタワー東京
兼 東京プリンスホテル
製菓製パン料理長



松島 哲郎 さん
ロイヤルパークホテル
ベストリー調理シェフ



二上 友美 さん
学校法人 古屋学園
専門学校 二葉製菓学校
教員

福島市在住シェフ・パティシエ(3名)



菅野 喜代治 さん
レストラン
ミュゼ・ドゥ・カナル
オーナーシェフ



高橋 和美 さん
ザ・セレクトン福島
総料理長



高藤 隆一 さん
福島県洋菓子協会
専務理事
(向原区清泉堂 専務取締役)

事務局
応募先

福島市役所農政部農業振興課内

「ふくしまスイーツコンテスト2015」係

〒960-8601 福島市五老内町3-1 ☎024-525-3727 FAX 024-533-2725



CONTENTS

2 福島の観光
「レトロな
ローカル線を愉しむ」
●福島交通飯坂線

4 ふくしまの魅力人 一第8回—
「ぼんさいや「あべ」三代目
阿部大樹さん

6 福島の文化
「手仕事の国、ふくしまの
歴史と未来を紡ぐ」
●福島市民家園手織りの会

8 インフォメーション
●ふくしまスイーツコンテスト2015
コンテスト参加者募集!

表紙紹介 「素敵な車掌を目指します!」



表紙説明：
今年の4月から福島交通飯坂線の車掌として働き始めた波里歩美さん。珍しい女性車掌として、福島市民の通勤・通学や、飯坂温泉を訪れる観光客の足として欠かすことのできない飯坂線で、一緒に入社した本田茉莉愛さんと共に、笑顔の素敵な女性達が福島の観光の未来を支えていきます。(写真は合成です)

市民フォト・ふくしま夢通信

平成27年 7月1日 発行 No.23 2015年 7月号

<http://www.city.fukushima.fukushima.jp/>

ホームページもご覧ください

福島市

検索

アプリ

YouTube

チャンネル

ふくしまチャンネル

twitter

アカウント

fukushimacity

Facebook

アカウント

福島市

編集
発行

福島市役所 広報広聴課

〒960-8601 福島市五老内町3-1

☎024-525-3710 FAX024-536-9828

E-mail : kouhou@mail.city.fukushima.fukushima.jp